

特別收容プロトコル

SCP-999 は望む限り施設を自由に散歩することを許されていますが、それ以外の際には檻に居なくてはなりません。対象が夜に檻から出る事に出ることは許可されておらず、また施設の外に出ることはいかなる時間帯でも許可されていません。檻は清潔に保たれ、そして食餌は日に二回取り換えられることになっています。全ての職員は他に仕事がない時、または休暇の時に限って SCP-999 の檻に入る事を許可されています。対象が退屈な時、穏やかで非攻撃的な声色で話しかけたら、職員は対象と一緒に遊ぶこともできます。

説明

SCP-999 はピーナッツバターに近い粘度の、大きく、まとまりがない、ゲル状で半透明、約 54kg(120 ポンド) のオレンジ色のスライムのように見えます。対象の大きさとかたちは絶えず変わっているにもかかわらず、大抵は大きなお手玉型の椅子の様な外観をしています。SCP-999 の組成は油性の、しかし近代科学では未知の物質で構成されています。また対象はオレンジ色の塊を取り巻く薄く透明な膜以外に発声のための器官を持っていないように見えます。

対象の性格は「遊びたがりで犬のようだ」と最もよく述べられています。例えば対象はアプローチされた時、最も近い人間に向かってズルズルと這いつつてからその人の上空に跳躍し、二本の偽足で人間を”強く抱きしめ”て、その間三本目の偽足でその人の顔を撫でつつ、またずっと甲高い「ごぼごぼ」と「くうくう」という音をまき散らします。SCP-999 の表面はその”強く抱きしめ”た人の誰にとっても心地のよいそれぞれ異なる香りを発散します。記録された香りは、チョコレート、洗いたての洗濯物、ベーコン、薔薇、そしてプレイドゥ(子供用のカラー粘土)....。

SCP-999 の表面にただ単純に触れる事で、急激な多幸感が発生します。そしてその多幸感は SCP-999 の肌に長く触れれば触れる程激しくなっていく、しかもこの存在から分かたれても長く継続するのです。対象のもっとも好む行動はある人の首から下をすっぽりと覆いつつそしてくすぐる「くすぐりレスリング」であり、しばしば行われます。これは SCP-999 に覆われた人がやめると要求するまで続きます(とはいえ、その要求はそう簡単には通りませんが。)

この存在は誰とでも触れ合いますが、その一方で何らかの経緯で傷ついたり不幸になっている人々にはとりわけ強い興味を持つようです。ある末期的なうつ病に苦しむ人は、SCP-999 とのふれ合いを経ると完全に快癒しとても前向きな人生観を持つようになって戻ってきました。抗うつ剤として SCP-999 の一部を市販する可能性について議論されてきました。

その遊び心のある振る舞いに加え、SCP-999 は全ての動物を(その中でも特に人類を)愛しているように思えます。いかなる肉であれ摂取するのを拒むだけでなく、自分以外を救うために自らの命を危険にさらすことさえします。動物たちに向かって銃を撃った人間の前に跳躍し、弾丸を受け止めることすら。(対象の知性はまだ議論できるほど成長しては居ませんが、その振る舞いは幼稚とはいえ、人間の会話とおおよその近代科学 銃を含む を理解しているように思えます)。この存在の食物は、全てキャンディとお菓子であり、お気に入りには M&M's チョコと Necco 社のウェハースです。これらを食べる様子はアメーバのそれに類似しています。

